

# Le Lys Blanc



## 白百合祭実行委員長あいさつ

白百合祭実行委員会 委員長

山本 あやめ

2025年10月25日、26日の2日間にわたり、第60回白百合祭を開催いたしました。

昨年に引き続き対面での開催となり、2日間で多くのお客様にご来場いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

開催に至るまでの道のりは決して平坦ではなく、数々の課題に直面し、不安を感じることもありました。しかし、実行委員や出店団体の皆さま、そしてご支援くださった多くの方々のお力添えにより、無事に第60回という節目の年を終えることができました。改めて感謝申し上げます。

今年度は「Gift」というテーマのもと、約100名の実行委員で活動してまいりました。

このテーマには、第60回白百合祭という節目にあたり、同窓会の方々、地域の皆さま、そして白百合祭にお越しくださるすべての方々へ、感謝の気持ちを込めて“素敵な贈りもの”をお届けしたいという想いを込めました。

この第60回白百合祭を通して、少しでも心が躍り、笑顔になり、幸せなひとときを感じていただけていたら幸いです。

実行委員が企画したトークショーやチャリティーイベントは多くのお客様にお越しいただき、大変盛況となりました。

また、クラブや有志団体の皆さまにも多大なるご協力をいただきました。

中にはこの白百合祭をもって引退を迎えられる方もおり、それぞれの想いが詰まった発表に心を動かされる瞬間が何度もありました。

これからも、皆さまの心に残る白百合祭をつくっていくよう、実行委員会一同努力を重ねてまいります。

最後になりますが、第60回白百合祭の開催にあたりご尽力くださいましたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

2026年  
2月20日発行

### Contents

白百合祭 特集	1~3
新任教員ごあいさつ・ 教育・表彰	4
国際交流・高大連携・ 地域連携	5
講演会・研究	6
60周年記念行事	7
トピックス	8

# 参加団体からのコメント



## 縁日、グッズ販売

白百合祭実行委員会 イベント総務渉外 ヘッド  
国語国文学科 3年 小林 怜奈

今年の縁日はお菓子すくいを行いました。準備日はイベント総務渉外のみinnで買い出しに行ったり、看板の作成に取りかかったりしました。当日は雨で足元も悪い中、お子さんを中心に楽しんでいただくことが出来て良かったです。

白百合祭の開催60回を記念したオリジナルグッズは、本学のチャペルとサンリオキャラクターのコラボミニタオルを作成しました。男女や年齢問わず幅広いお客様に手に取っていただけて嬉しく思います。



## トークショー開催

白百合祭実行委員会 イベント企画 ヘッド  
国語国文学科 3年 竹下 藍

トークショーの運営を通して、メンバー全員で一つのイベントを形にしていく楽しさを実感しました。準備段階では進行や会場演出に工夫を重ね、当日はお客様の温かい拍手が大きな励みとなりました。また、ゲストのお二人が学生一人ひとりに寄り添って語ってくださった言葉は胸に深く響きました。学びと達成感にあふれた、非常に貴重な経験でした。



## チャリティー抽選会

白百合祭実行委員会 チャリティーイベント ヘッド  
国語国文学科 3年 浮田 奈那美  
フランス語フランス文学科 3年 平田 夏蓮

当日はあいにくの雨となりましたが、多くの方々にお越しいただき、盛況のうちに終了しました。

会場では、当選番号の発表に歓声が上がリ、賞品を手にした参加者の笑顔が広がるなど、雨にも負けない温かな雰囲気に包まれました。

今回の収益金は、カリタスジャパンを通してミャンマー地震の救援募金として寄付させていただきました。

白百合祭を通して「誰かの力になりたい」という思いを形にできたこと、そして多くの方々のご協力に支えられたことに、心より感謝申し上げます。



## スタンプラリーとお城にまつわる絵本展示

児童文化学会 児童文化学科 3年 深松 文

児童文化学会は、「ようこそ！ホワイトリリー城へ」というテーマで、スタンプラリーやお城にまつわる絵本展示、ポンデリングドーナツの販売を行いました。



生憎の雨にもかかわらず、スタンプラリー、絵本展示、共に多くの皆さまにご参加いただき、心より嬉しく思います。ありがとうございました。



## 心理学実験

発達心理学会 発達心理学科 3年 松本 茉音

発達心理学会では、心理学実験の体験と展示を行いました。来場者の皆さまに興味を持っていただき、楽しみながら心理学に触れてもらうことができました。実験内容が分かりやすく伝わるように説明の仕方を工夫し、心理学の楽しさを感じてもらえるようにしました。足を運んでくださった皆さま、本当にありがとうございました。



## アメリカンドック販売

リリーベル (有志団体)

フランス語フランス文学科 4年 皆川 万維

国語国文学科 4年 篠崎 賀南子

私達は、昨年まで実行委員を務めていた7人でアメリカンドックを販売いたしました。1年生からの3年間とは違った形で白百合祭に関わる事ができ、新たな学生生活の思い出が増えました。お越し頂いたお客様、運営に携わられた白百合祭実行委員の皆さん、教職員の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## チョコクロワッサン販売

団体児童文 1年

児童文化学科 1年 大村 麗

児童文化学科 1年 荻原 未紘

団体児童文1年はチョコクロワッサンの販売を行いました。

初めての白百合祭でしたが、高校生までの経験を糧に、装飾や配置など細かな部分にも気を配って出店しました。

特にトングやカゴを用いて、パン屋さんらしい世界観を再現できるよう工夫しました。

雨で足元の悪く中、販売場所まで足を運んでくださった皆さま、本当にありがとうございました。



## 新任教員ごあいさつ

グローバル言語・文化教育センター  
助教 小原 花

### まだ気づいていない身体や言葉、 声を探す



2025年9月、グローバル言語・文化教育センターに助教として就任いたしました。

演出家、演出助手、ワークショップファシリテーターとしての経験を活かして、「舞台芸術実践プログラム」のコーディネーターを務めています。最近、「劇団さて、」を作りました。

担当する「舞台芸術実践演習」のテーマは、“演劇をしてみる”ことです。演劇を“体験”することで一人ひとりが自分と他者を観察し、まだ気づいていない身体や言葉、声を見つける機会を創出します。それは、日々の生活や仕事、もしかしたら、もっと大きなことや小さなことにも繋がるのではないかと考えています。そして、受講生の方が授業を通して見つけた事柄を教えてくださいるとき、私もまた新しい発見をします。

センターの窓からは、堂々としたヒマラヤスギが見えます。この木を横目に芝生を突っ走り、単位ギリギリの授業に向かった朝を思い出します。私は、ここでフランス語と教育を学びました。

そして2年前、非常勤として戻り、今年、センターに私の机と椅子ができました。

様々な機会をくださった教員、職員の皆さま、そして学生の皆さまにいつも大変感謝しています。

どうぞお気軽にお声がけいただけますと幸いです。

## 表彰

### 2025年度フランス語ディクテコンクール(白水社協賛)

- レベルA 最優秀者 藤本ひまり(フ文1年)
- レベルB 最優秀者 伊藤蓮珠(フ文2年)
- レベルB 最優秀者 篠原史佳(フ文2年)
- レベルC 最優秀者 高山朋佳(フ文3年)



### 2025年度英語スピーチコンテスト

- 第1位 小野莉奈(英文1年)「Insights Gained Age at Age 25」
- 第2位 柳日菜理(英文2年)「A Small Act, A Big Connection」
- 第3位 高橋美奈(英文3年)「We Are Carpenters」



## 学生によるミタカ・ミライ研究アワード2025提案発表会

2025年12月7日(日)、三鷹ネットワーク大学主催の「学生によるミタカ・ミライ研究アワード2025提案発表会」が行われ、文学部英語英文学科3年の高橋美奈さんが、教職課程の学生チーム「ホワイトリリーズ」の代表として出場しました。

この提案発表会は、三鷹市とその近隣にある大学の学生たちがこの地域の課題を見つけ、その解決法を三鷹市長に向けて提案し、この地域社会をよりよくしようという取り組みです。

ホワイトリリーズは、小学校の外国語が教科となり、以前よりも難しくなった中学英語で生じている英語苦手意識を持つ中学生たちに、地球市民として英語を学ぶ意義を感じてもらい、大学生と協働で英語を通して地域の課題を解決していく方法を考えるプロジェクトを提案しました。経済的にゆとりがなくて英語塾に行けないような生徒さんが、学外で楽しく英語を学ぶ一助になることも目的の一つです。

本学のほかには、杏林大学、大正大学、成蹊大学、亜細亜大学から7チームが出場し、三鷹の空き家活用や高齢者のための健康増進プログラム、児童館の活性化などについて提案をしていました。高橋さんは「私たちが提案したプロジェクトを持続可能なものにするためには、白百合だけではなく他大学とも協力してやっていければいいと思う」と意見を述べていました。

ホワイトリリーズは優秀賞に選ばれ、他2チームとともに、2月6日(金)に三鷹市長の前でプレゼンテーションを行いました。



▲ミタカ・ミライ研究アワード2025で発表する高橋美奈さん

## 「授業改善のための学生アンケート」2025年度前期顕彰授業

2025年度前期に実施した「授業改善のための学生アンケート」の結果、高評価を得て顕彰授業に選ばれた教員の表彰式が執り行われました。

顕彰制度では、対象の6項目の平均点の合計が最も高かった授業を表彰しています。

2025年度は文学部専門科目、外国語科目、中等教職課程科目、大学院(国・フ・英・言)専門科目を対象にアンケートを実施し、9月のFD・SD推進委員会にて以下のとおり前期顕彰授業が決定いたしました。

### ■少人数部門

(履修者6～19名)  
フランス語フランス文学科  
専門科目 水曜2限・前期  
「専門ゼミI」

高山香奈 先生  
(文学部フランス語フランス文学科  
准教授)



▲高山香奈先生(前列右から2番目)

### ■多人数部門

(履修者20名以上)  
国語国文学科専門科目  
火曜2限・前期  
「書道」

中野和博 先生  
(文学部国語国文学科非常勤講師)



▲中野和博先生(中央)

# 国際交流・高大連携・地域連携

## ASEACCU 国際会議報告

2025年度のASEACCU国際会議(The Association of the Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities)が、8月19日(火)から8月21日(木)までの日程で静宜大学(台湾・台中)にて行われました。

本学からは、教職員2名と学生2名が派遣されました。インドネシア、オーストラリア、韓国、タイ、台湾、中国、日本、フィリピン、カンボジア、東ティモールのカトリック大学の教職員および学生が、今年のテーマである“Pilgrims of Hope: Spiritual Development and Action of Gen Z”について、講義やワークショップを通じて理解を深めました。各講義では、参加者から多くの質問が寄せられました。学生にとっては、ワークショップなどを通じて、学生同士がそれぞれの考えや自国の取り組みを発表し合い、信仰や社会的責任について考える貴重な機会となりました。

ASEACCU国際会議の様子は10月2日(木)の全学教授会において引率の平尾教授から共有され、10月29日(水)には参加者による学内報告会も行われました。

なお、来年のASEACCU国際会議はインドネシアのジョグジャカルタで開催される予定です。



▲引率の平尾桂子先生と学生たち

## 高大連携協定締結—東京家政学院中学校・高等学校—

2025年11月4日(火)に東京家政学院中学校・高等学校(東京都千代田区)と高大連携協定および図書館利用協定を締結しました。

協定書の取り交わしが本学キャンパスにて行われ、東京家政学院中学校・高等学校からは佐野金吾校長、進路指導部長尾大介先生が、本学からは猪狩友一学長、小林明子副学長、近江卓史事務局長が出席しました。

この協定締結により、相互の伝統や建学の精神、教育目標を尊重しながら、探究学習をはじめとする学習支援やキャリア支援、スポーツ・文化などの幅広い分野で相互の交流を深め、さらなる教育連携を目指します。



## アドヴェントの集い&クリスマス・ミサ報告

2025年12月4日(木)16:30より、アドヴェントの集いが中庭にて行われました。アドヴェントとは、キリスト教カトリック教会の暦でクリスマスの4週間前の日曜日から始まるクリスマスを待ち望む期間のことで、毎年この時期に地域の方々を迎えて、ヒマラヤ杉のイルミネーションを点灯しています。初等教育学科の学生による司会進行のもと、今年も緑ヶ丘小学校の児童と本学児童英語指導者養成プログラムの履修学生、本学セントポール・クワイア(学生聖歌隊)によるパフォーマンス(聖歌、クリスマスソング、ダンス)が披露されました。また、学内の廃油等を再利用して学生エコサポーターが手作りしたエコキャンドルは、例年よりカラフルなキャンドルにバージョンアップされ、パフォーマンスのステージを明るく彩りました。児童と学生のパフォーマンスに続いて、関谷義樹神父がクリスマスについての聖書のことばをお話くださった後に、全員でヒマラヤ杉を囲みながら声を合わせてカウントダウンし、イルミネーション点灯の瞬間を共有いたしました。

12月24日(水)15:00より、近隣の方や卒業生を主な対象としたクリスマス・ミサが本学チャペルにて行われました。今年は予約受付人数をコロナ禍後では最も多い200名まで拡大して、より多くの方々にご参加いただけるようにいたしました。クリスマス・ミサは、カブンディ M. オノレ神父司式により行われ、チャペルに集った幅広い年代の方々とともにクリスマスをお祝いいたしました。



## 東北财经大学(中国・大連) 夏期中国語・文化研修報告



2025年8月10日(日)から8月23日(土)までの期間、東北财经大学(中国・大連)にて夏期中国語・文化研修が実施され、3名の学生が参加しました。本学の学生のほか、他国の大学からも参加者がいました。今回の研修にかかる費用(現地での研修費用および宿泊費用)は、東北财经大学が負担し、学生は現地までの交通費のみを自己負担としました。また、本学と東北财经大学は交換留学の

協定を締結していますが、今回は本学から東北财经大学への初めての派遣となります。

研修期間中は、午前には中国語の授業が行われ、午後にはセミナーやフィールドトリップ、文化体験などが実施されました。週末には大連市内の観光も行われ、学生にとっては中国語の習得だけでなく、中国の文化や歴史について深く理解する貴重な機会となりました。例えば、現地ではスマート支払いが広く普及しており、多くの場面で現金での支払いができないことを体験し、日本との違いを実感したようです。

この研修を通じて、学生たちは中国語のスキル向上だけでなく、異文化交流や集団生活の経験も積むことができました。本学の学生には、東北财经大学への交換留学にも挑戦してほしいと考えています。

## 調香師ダニエル・ペシオ氏講演会

2025年10月9日(木)クララホールにおいて、フランス語フランス文学会主催で、調香師のダニエル・ペシオ氏による講演会「香水の魔法—香水の歴史と調香師の仕事」が行われ、学内外から約60名が参加しました。

前半では、香水の歴史について、香りを実際に体験させていただきながら、古代エジプトで使用されていた香水は「キフィ」とよばれる固形の香水だったことや、古代ローマ時代にはアヤメやオレンジの花が使用され、中東では蒸留の仕組みが誕生するなど、香りはどの時代でも人々の暮らしと密接に結びついていたことを解説いただきました。

後半では、京都の町からインスピレーションを得て日本酒からつくられた香水や、収穫された稲の香りと周囲のミカン畑からインスピレーションを得た香水など、すでに知っている香りを別の視点からとらえる、ペシオ氏の香水制作についてお話いただきました。

終了後に行われた、フランス語フランス文学会の学生による茶話会では、ペシオ氏にたくさんの質問が寄せられ、それぞれの質問に専門家として真摯にご対応くださいました。



▲ダニエル・ペシオ氏と、通訳を担当した中井珠子名誉教授

## 料理家土井光先生講演会

2025年12月8日(月)、本学卒業生で料理家として活躍され、そして本学非常勤講師でもある土井光先生をお招きし、「地方都市リヨンの生活と郷土料理」をテーマとした講演会を開催しました。

講演前半は、リヨンが美食の街と呼ばれるようになった歴史的背景や土地の特性についてご講義いただきました。また日本とフランスの食文化の比較についてもお話いただきました。日本料理が自然や素材を大切にしながら提供するタイミングを重視するのに対して、フランス料理は地域の風土を重んじながら伝統的なレシピを現代的に再解釈する *revisit  * (ルヴィジテ) によって発展してきました。両国の料理は対照的でありながら、互いに尊重し合う良好な関係であることを知ることができました。後半は、サラダ・リヨネーズとポム・ドフィーヌの調理実演および試食会で、フランスの家庭料理を体験。参加者からは、「敷居が高いと思っていたフランス料理が身近に感じられた」「作る工程を見ることで自分でも作ってみたいと思った」といった感想が寄せられました。食を通してフランス文化への理解と関心が深まる有意義な機会となりました。



▲デモンストレーション中の土井光先生

## 教員の出版物 (2025年4月～9月)

教員名	所属	役職	書名	種別	出版年	出版社
釘宮 明美	カトリック教育センター	教授	時のかたみに—キリスト教と文学・師・信仰	単著	2025年7月	春風社
伊東 玉美	国語国文学科	教授	発心集 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典	単著	2025年8月	KADOKAWA
井上 隆史	国語国文学科	教授	三島由紀夫と唯識	共著	2025年9月	青土社
萩野 了子	国語国文学科	講師	古代和歌の構造 様式が紡ぐ表現史	単著	2025年5月	花鳥社
岩政 伸治	英語英文学科	教授	映画で読み解く現代アメリカ2 トランプ・バイデンの時代	共著	2025年5月	明石書店
山中 智省	児童文化学科	准教授	雑誌利用のメディア社会学 文化を可能にする「工夫」	共著	2025年6月	ナカニシヤ出版
波多江洋介	発達心理学科	教授	施設で暮らす子どもの生活と育ちを支えるケアワーカー	共著	2025年9月	福村出版

# 60周年記念行事

## 60周年記念行事

2025年に、白百合女子大学は、創立60周年を迎えました。

白百合女子大学は、創立以来、学生、同窓生、保護者の皆さま、教職員、地域住民、自治体、企業等多くの方々に支えられながら発展してまいりました。創立60周年を記念して以下の行事を実施いたしました。

行事名	開催日
白百合女子大学同窓会主催 創立60周年記念ミサ 司式：カトリック東京大司教区アンドレア・レンボ補佐司教	2025年5月24日
キリスト教文化研究所主催 創立60周年記念 第77回チャペルコンサート 演奏：永瀬真紀氏	2025年6月20日
創立記念ミサ 司式：高山貞美神父（聖心布教会司祭・本学前学長）	2025年6月26日
創立60周年記念講演会 いにしへの知恵と現代の知性が出会うとき：AI時代の学び 講師：バーバラ・オークリー氏（オークランド大学卓越教授）	2025年10月26日
キリスト教文化研究所／ルイ・ショーヴェセンター共催 創立60周年記念講演会 2025. 今、生きること—— 一卒業生の祈り 講師：弘田しずえ氏（ベリス・メルセス宣教修道女会）	2025年12月6日
白百合女子大学同窓会主催 創立60周年記念同窓会イベント「行ってみよう、還暦の母校へ！」	2025年12月6日
建学の精神と本学の歴史を記録するパネル展示（3号館1階常設）	2026年5月お披露目予定

## ヒマラヤ杉とともに60年

創立60周年を記念して、1965年の開学当初に植えられたヒマラヤ杉の歩みをご紹介します。

第2代 Sr. 片岡照子学長の開学当初の思い出として残されている文章には、「4月19日、復活祭後の月曜日、小雨の中、九段からの応援のスールたちが到着、林の中から杉の若木を抜いて植樹」というヒマラヤ杉のことと思われる記述があります。また、白百合女子大学創立25年記念誌のなかでも Sr. 片岡学長は、「現在、講堂前の芝生に天高くそびえる3本のヒマラヤ杉が、1メートルそこそこのひ弱な若木で植樹された」ことを思い出として語っています。開学から26年目を迎える1991年には、現在本館の場所にあった旧管理棟の建替えに際し中庭にプレハブを建てることになり、3本のヒマラヤ杉のうちの2本が惜しまれながら伐採されました。現在私たちが親しんでいるヒマラヤ杉は、この時に残された1本ということになります。残されたヒマラヤ杉の樹形は、その後しばらく縦長のシルエットでしたが、2000年代入ってから芯止めが施されると徐々に幹も太くなり、枝を横に広げた現在に近い姿となりました。

60年の間に約15メートルの大樹に成長し、雨の日も風の日も、学生・同窓生・教職員を静かに見守り続けてくれています。



1965年開学後まもなくの頃



1973年頃



1978年頃



1982年頃（寮ガーデンパーティ）



1989年頃（卒業アルバムより）



1990年頃（創立25周年記念誌より）



1991年10月



1993年頃（卒業アルバムより）



2000年頃



2002年頃（白百合女子大学ニュースより）



2009年白百合祭（大学ニューススリランより）



2015年頃（創立50周年記念誌より）



2021年春



2022年秋



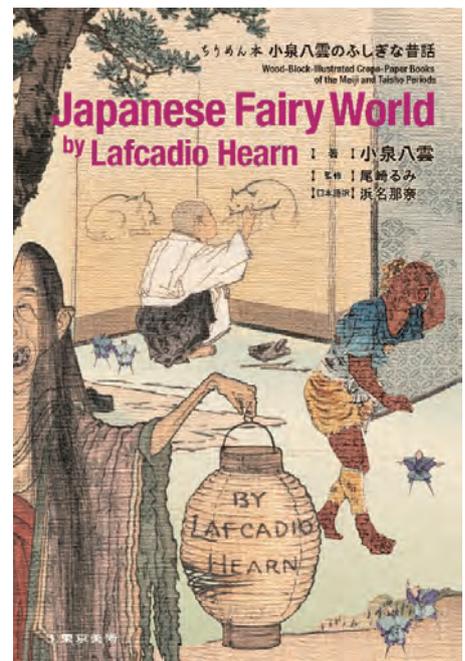
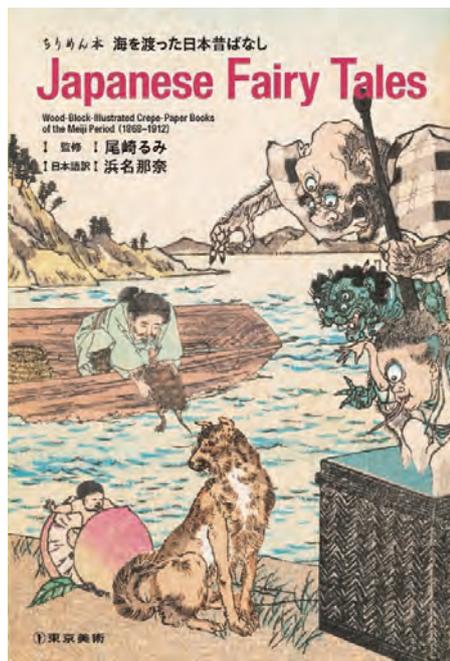
2024年冬



2025年12月

## 本学図書館所蔵のちりめん本が書籍に掲載されました

2025年4月と11月に、本学図書館所蔵のちりめん本を一部使用した図書が出版されました。「ちりめん本」は、日本の昔話を美しい挿絵と共に和紙に刷り、それにクレープ上の加工を施し和綴じした欧文絵本で、おもに明治～大正時代に作られました。当時の職人の加工技術だけでなく、日本の気候風土も相まって、現代では再現不可能と言われていています。「ちりめん本」は、外国人向けの土産として人気となり、現在では、国内外でも人気で海外コレクターも存在するほどです。図書館では、30年以上前から収集しているコレクションのひとつで、児童文化研究センターにもちりめん本プロジェクトがあります。所蔵の一部はデジタル化してWeb上で公開しており、それをご覧になった東京美術の編集者の方から、出版に使用させていただきたい旨の依頼が2024年夏にありました。児童文化研究センターの尾崎研究員監修、浜名研究員が日本語訳として参加し、取りあげるタイトルについては図書館長でもある児童文化学科教授の浅岡先生の推奨で決まりました。書籍に掲載の画像は、今回のために撮影を行ったものです。4月に発売された後、NHK朝ドラで、「ばけばけ」のモデルでもあるラフカディオ・ハーンが関わったちりめん本の出版企画をいただき、11月に出版されました。



## 同窓会室の移転

正門前の道を挟んで向かい側にある5号館の老朽化に伴い、同窓会室は2025年8月1日(金)より北門側の8号館102号室に移転いたしました。大学と同じ敷地内への移転によって学内の各組織との行き来がしやすくなりました。これまで以上に大学と同窓会の連携の向上につながることを期待されます。



▲5号館は売却後、取り壊される予定

## ＜ご寄付への御礼＞

白百合女子大学へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。寄付者の皆さまへの感謝を込めて、ここにご芳名を掲載させていただきます。多くの皆さまからのご支援に深く御礼申し上げます。

井上 聡一様  
大塚 誠様  
坂本 ひとみ様  
西村 章様  
松田 円様

※お申し込み時のご芳名公開可否のご意向に沿って掲載しています。

